

明治大学平和教育登戸研究所資料館は 2012年4月、開館3年目を迎えました

館長よりご挨拶

開館3年目にあたって

館長 山田 朗（明治大学文学部教授）

本年4月で資料館は開館3年目をむかえました。これまでに来館された方は、開館1年目の2010年度が1万1,166名、2年目の2011年度が6,751名で、総計1万7,917名に達しました。この2年間の来館者データは以下の通りです。

年度	開館日数	来館者数	一月平均	一日平均	アンケート回収数
2010年度	207日	11,166名	930.5名	53.9名	1,139通
2011年度	215日	6,751名	562.6名	31.4名	1,655通
合計	422日	17,917名	746.5名	42.5名	2,794通

開館初年度に比べ、来館者は減少しましたが、東日本大震災・放射能被害などの影響や長期にわたる厳冬であったにもかかわらず、リピーターやリピーターに誘われた新規の来館者も多く、団体見学も皆さまのおかげでおおむね順調であったといえます。これは、各展示室ごとの展示解説DVDの導入や「紙漉き体験」「ミニ気球作り」などの新しい企画を実施したこと、企画展「風船爆弾の風景 2011」がマスコミでも広く紹介されたこと、展示補修などによるものと考えています。

アンケート等でもおおむね好意的な評価を受けることが多かったのですが、こうした好調さに甘んじることなく、展示内容の充実と来館者対応のさらなる向上に努めていかなければならないと、3年目をむかえた資料館は気持ちを引き締めています。

資料館の来館者動向

～2011年度のアンケート結果より～

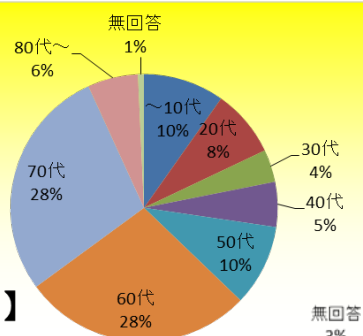
登戸研究所資料館では、来館者の皆様にアンケートへのご協力をお願いしています。2011年度では1,655件もの回答をいただきました。これは来館者延べ人数の約4分の1になります。

そこで今回、前年度とも比較しつつ、その回答から来館者の動向を探ってみました。

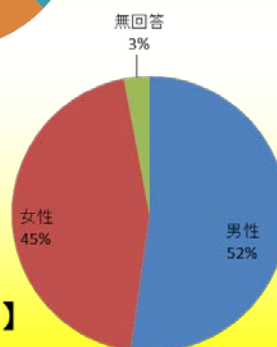
年代…60代と70代の方が併せて半数以上を占めます。また学校行事などで来館される10代、20代の学生の方は前年度より6%増加しました。本学の学生の他、他大のゼミ単位での見学、また中学・高校教員の方が資料館見学を授業に取り入れるケースも増加しました。

性別…男性がやや多い傾向にありますが、前年度比でその差が縮まりました。婦人団体の勉強会での見学も増加傾向にあります。

【年代別】



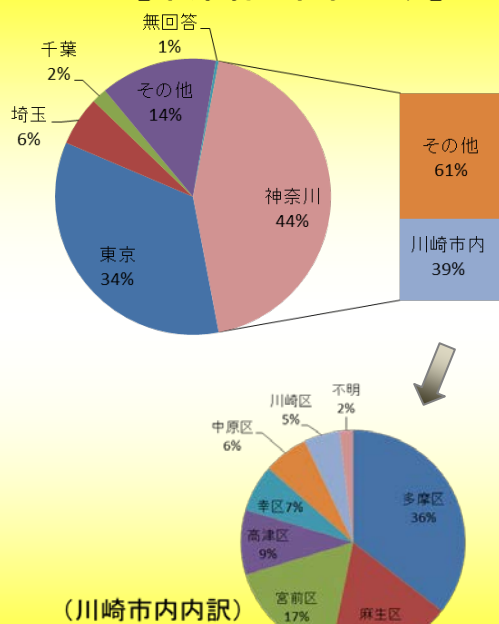
【性別】



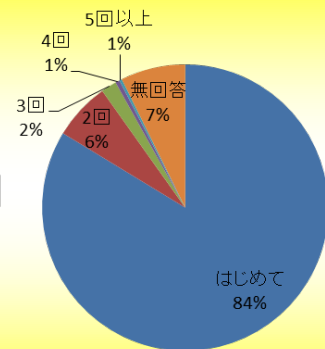
来館回数…「はじめて」の方が84%を占める中、リピーターの方も微増しています。リピーターの方から誘われてご来館されるというケースも多いのが特徴です。口コミで資料館に興味を持っていた方も大勢いらっしゃいました。

来館者のお住まいの地域…前年度比で、より広い地域から来館されました。開館当初は地元川崎市を含む神奈川県が半数以上を占めていましたが、今では県内外、特に首都圏からの割合が大きくなりました。国内も、北は北海道、西は広島からご来館のお客様があり、遠方からのお客様からこの資料館を一番の目的として訪れたという言葉に励まされることも多いです。今年度は海外からのお客様も散見されました。韓国やなんとニュージーランド在住のお客様も！

【来館者の在住地域】



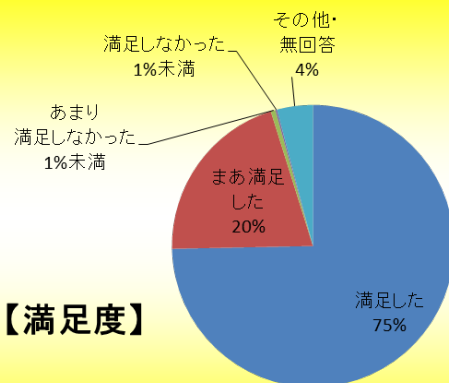
【来館回数】



満足度…「満足した」「まあ満足した」の合計はなんと95%！

うち、前年度に比べ「満足した」とのご意見が4%増。展示解説やご案内内のお褒めの言葉も頂戴しています。特に土曜日に不定期開催される見学会は内容も充実していると大変好評です。そのほかにも、ご希望の方へは1名様から随時職員が館内をご案内いたしますのでご来館の際には是非お声掛けください。

【満足度】



第四展示室 新資料展示のお知らせ (2012年4月1日より)

中国交通銀行10元札真札

登戸研究所で作られた「本物の偽札」として開館時より展示中の6連偽札と見比べられるよう、同券種の真札を新たに購入し、展示を始めました。この偽札は日本軍の香港制圧時に入手した真札の版・用紙・インクで印刷されているとも考えられ、真札と見比べることで、この偽造紙幣が大変精巧な作りであることが一層よくわかります。



中央銀行1000元券

戦争が長引くにつれ、中国国内のインフレは加速し次々と高額紙幣が発行されました。中でもこの紙幣は重厚感に欠ける活字が用いられ、性急に発行されたと推測されます。日本による偽札の発行はそのスピードに追い付けず、最も高額なもので200元に止まったといい、「貨幣戦争」は失敗に終わりました。



※現在、これらの資料は稀少なため複製を展示しております。ご了承ください。なお、今後実物の展示も期間を限り行う予定です。



「1936年撮影」空撮写真
(国土地理院所蔵)
赤枠は後年、登戸研究所と
なった土地。

資料館の第一展示室のパネル
「航空写真で読みとく登戸研究所
の変遷」にある「1936年撮影」
の写真を見たことがありますか？
これは登戸研究所設置以前の様子
を撮影したものです。左の写真の
円で示された箇所に数棟の建物が
確認できますが、これらは当時「日
本高等拓殖学校」のものでした。

この学校は当時の衆議院議員上塚 可^{うえつかつかさ}が開いた、ブラジル・ア
マゾン移住者に^{しよくみん}殖民教育をするための私立学校でした。昭和7
(1932)年に世田谷から生田に移転、修業1年間の教育でアマゾ
ン^{にゅうしよく}入殖の指導者を送り出していましたが、昭和12(1937)
年には閉鎖されていたと言われています。

そこで陸軍が秘密戦の研究に適した土地を探していた
中、この地が選定され、同年11月、登戸研究所の前身で
ある陸軍科学研究所登戸実験場がこの地に誕生しました。

そして、下の写真の拓殖学校講堂・校舎は、登戸研究所の
本館として引き継がれ、終戦による解散時まで使用されま
した。戦後は明治大学も事務室や図書館として活用。現在
は跡形もありませんが、取り壊されるまでは激動の時代に
生き残った建物だったのですね。



かつて拓殖学校本館だった建物。現在も生田キャンパスに残るヒ
マラヤ杉並木が写っている。(1960年代吉崎一郎氏撮影、タイ
トル背景も同じ)

資料館活動報告

M47A2 焼夷爆弾寄贈

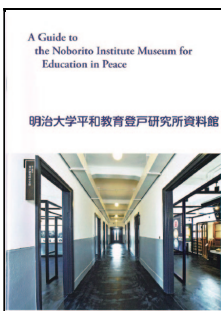
宇都宮市近郊の山中で発見された焼夷爆弾の殻が2010年
8月に当館へ寄贈されました。宇都宮市北東部にあった金丸原
飛行場において風船爆弾飛翔実験が行われていたため(『風船
爆弾 純国産兵器「ふ号」の記録」吉野興一著による)、寄贈
された当初は風船爆弾に関連する資料だと考えられていまし
た。しかし、その後の当館の調査により、これは宇都宮空襲時
に投下された米軍のM42焼夷爆弾であることが判明しまし
た。そのため、宇都宮空襲の被害を後世に伝えていく重要な資
料として、昨年5月に宇都宮市教育委員会へ寄贈しました。5
月～6月には「うつのみや新発見伝2011(新資料速報展示)」



「うつのみやの戦災展示」でのM42A2焼夷爆弾展示のようす

(同市とびやま歴史体験館)にて、7月～8月には「うつのみ
やの戦災展示」(宇都宮城址公園清明館)にてさっそく展示さ
れました。展示室には夏休み中の小学生もたくさん見学に訪れ
ており、多くの宇都宮市民の方に見ていただくことができたよ
うです。

ガイドブック 大好評配布中！！



登戸研究所資料館待望のガイドブ
ックがいよいよ完成しました。

各展示室の解説やコラムなど、充実し
た内容が30ページ、オールカラーのこ
の一冊に詰まっています。

ご来館者の方へはなんと**無料**でお配
りしています！ご入り用の方は資料館
事務室へお気軽にお声掛けください。

展示補修を行いました

最新の研究の成果や来館者の方よりのご指摘、また、旧登戸
研究所の所員の方の新たな証言などを元に、2011年末に資料
館内常設展示の補修を行いました。

ご来館のお客様からの声も反映させるため、今後も幅広く耳
を傾け、一層見やすく、わかりやすい展示を目指してまいりま
す。ぜひ、お気軽にご意見をお寄せください。

資料館からのお知らせ

山田朗館長が

「旧陸軍登戸研究所第三科・偽札印刷工場（五号棟）調査報告」を発表！！

『川崎市文化財調査集録47』に山田朗当館館長著「旧陸軍登戸研究所第三科・偽札印刷工場（第五号棟）調査報告」が収録されました。内容を少しご紹介いたします。

昨年3月に解体された「五号棟」ですが、解体に際し、長年倉庫として扱われていた内部を徹底的に片づけたことで様々なことがわかりました。まず、多数に区切られていた部屋が実は広い1部屋（1棟が4室に区切られていた）であったことなどが発見されました。また、各部屋からは印刷機が設置されていた痕跡がはっきりと確認され、五号棟の用途が偽札印刷専門棟であったことが判明しました。詳しく知りたい方は川崎市教育委員会生涯学習部 文化財課で、1冊 500円で購入できます。お問い合わせは044-200-3306までお願いいたします。

新刊のお知らせ

明治大学平和教育登戸研究所資料館・
山田朗編『陸軍登戸研究所〈秘密戦〉の
世界一風船爆弾・生物兵器・偽札を探る』
明治大学出版会 1800円

渡辺賢二『陸軍登戸研究所と謀略戦
科学者たちの戦争』
吉川弘文館 1700円

明治大学生田キャンパス学生会館
1階の書店「丸善」で好評発売中！

第二展示室 LED化になりました！

第二展示室を4月よりハロゲンランプからLEDに切り替えましたが、皆さまお気づきでしょうか？例えば、100V用 6W型LEDランプを使うと、CO₂年間排出量がハロゲンランプだと年間消費電力量(0.36kg/h)2.45t(6809tW)に対し、LEDランプだと年間消費電力量(0.36kg/h)0.42t(1175kWh)で83%ダウン、年間2.03tの削減とされています。なおかつ、ランプ交換による廃棄ランプを削減することにより環境に貢献します。現在は第2展示室のみですが、他の展示室も今後LEDに切り替えていく予定です。

資料館主催

登戸研究所見学会

開催のお知らせ

山田朗館長（明治大学文学部教授）、渡辺賢二明治大学兼任講師による

登戸研究所見学会

明治大学構内に残る登戸研究所史跡をめぐるあと、解説つきで資料館をご案内いたします。

開催日：山田朗館長 ガイド日

7月7日、8月18日、9月22日

渡辺賢二先生 ガイド日

7月28日、8月11日、9月8日、9月15日

集合場所：午後1時 生田キャンパス 中央校舎1階ロビー

内容：午後1時 明治大学生田校舎内 登戸研究所史跡案内

午後1時半頃 登戸研究所資料館 見学

午後3時頃 解散予定

参加費：無料

《学外の方は要事前予約》

*ツアー当日の午前中まで受け付けます（044-934-7993まで）。
にご予約下さい。

6月14日までの来館者数は

19,399名です

開館のご案内

水曜日から土曜日 午前10時～午後16時まで

入場料：無料

*10名以上の団体予約を希望する場合は、原則、見学希望日の1か月前までに電話またはメールで事前予約をお願いします。

*団体予約の場合は日曜日も予約可能です。ご相談ください。

編集・発行：明治大学平和教育登戸研究所資料館

〒214-8571

神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 明治大学生田キャンパス

TEL/FAX: 044-934-7993

Mail: noborito@mics.meiji.ac.jp

URL: <http://www.meiji.ac.jp/>